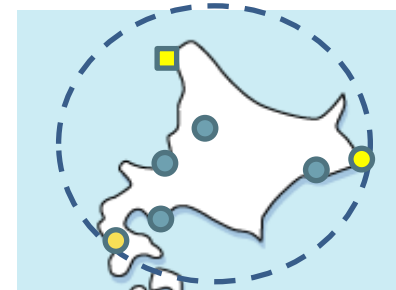


PM_{2.5}の地域的、季節的特性を把握し、どの発生源からの影響が大きいのか明確にします



<測定地点図>

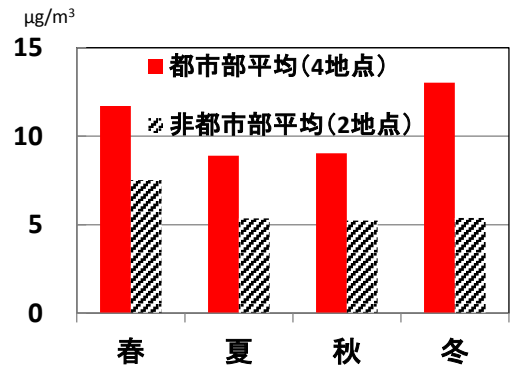
札幌、旭川、室蘭、釧路、根室市落石、江差、利尻（利尻は2011年開始）

背景

- 北海道内のPM_{2.5}について地域的、季節的な濃度傾向など未解明な部分が多かった。
- 道民や行政から高濃度PM_{2.5}の原因の解明を求められていました。

成果

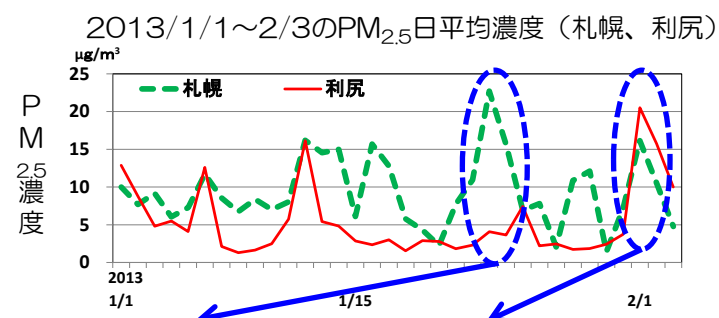
1 PM_{2.5}の地域的、季節的特徴の把握



都市部(札幌、旭川、室蘭、釧路)と非都市部(根室市落石、江差)のPM_{2.5}季節別平均濃度の比較(2010~2012年度)

○冬季に都市部で濃度上昇することが確認されました。
(都市域内発生源の影響)

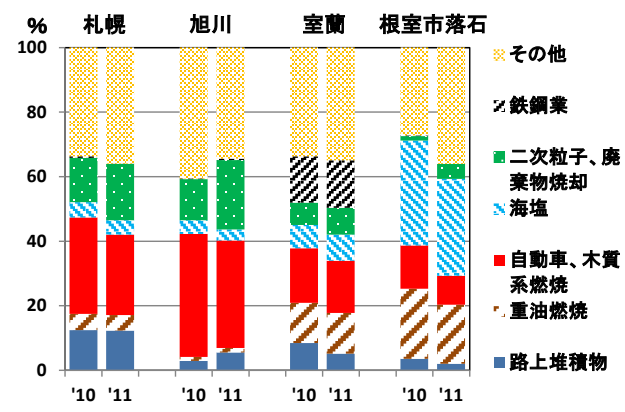
2 高濃度事例の解析(遠くからの影響と近くからの影響について把握)



<札幌のみ上昇> <両地点で上昇>
↓ ↓
<都市域内汚染> <遠くから運ばれた汚染>

○都市部と非都市部の測定結果について、風向や他の汚染物質濃度などを合わせて分析した結果、遠くの発生源の影響が大きい場合と近くの発生源の影響が大きい場合とがあることが確認されました。

3 各地域のPM_{2.5}濃度に影響を及ぼす発生源種類別の評価



発生源別の影響評価結果 (2010~2011年度)

○地域によりPM_{2.5}濃度に影響する発生源に違いがみられ、地域に応じた対策の重要性が示されました。
特に、燃烧系の発生源が環境に与える影響が大きいことがわかりました。

期待される効果

- 道のPM_{2.5}の注意喚起に関する要領策定に貢献。
- 道内自治体に対し、住民の安心に繋がる濃度情報や効果的な対策に貢献。